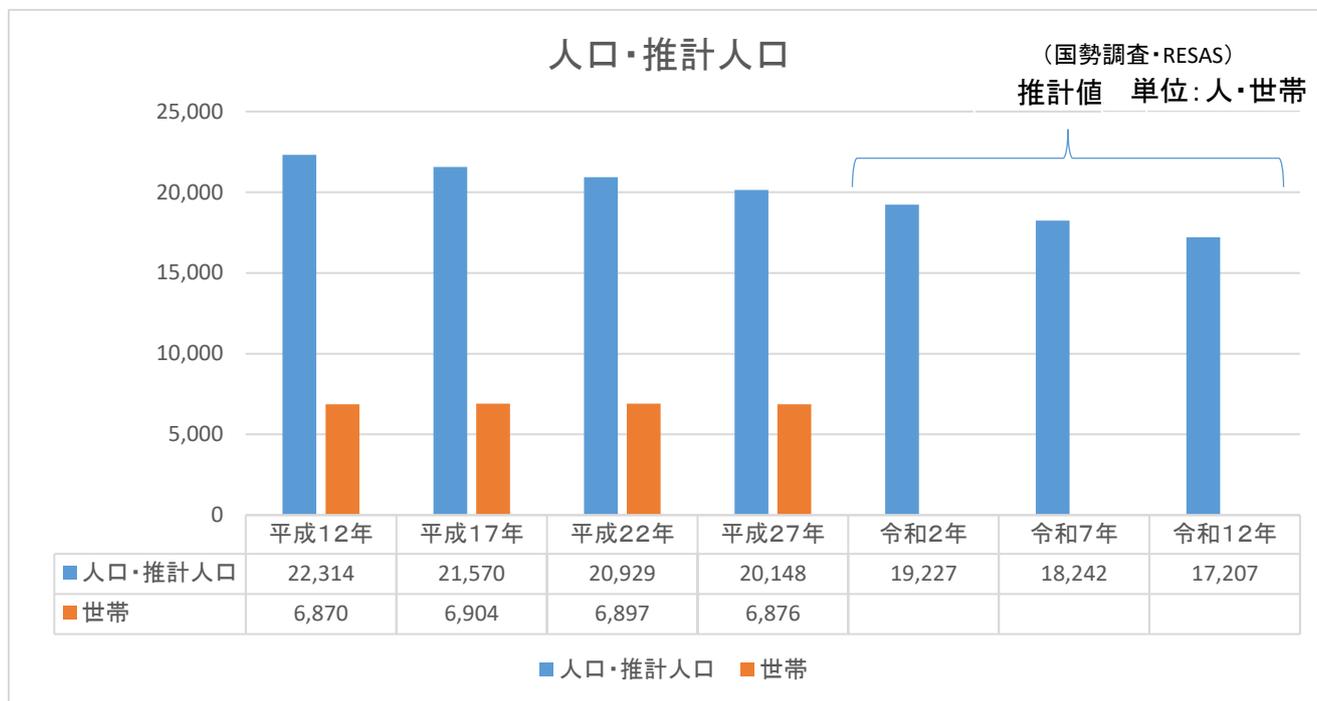


## 有田町の現況

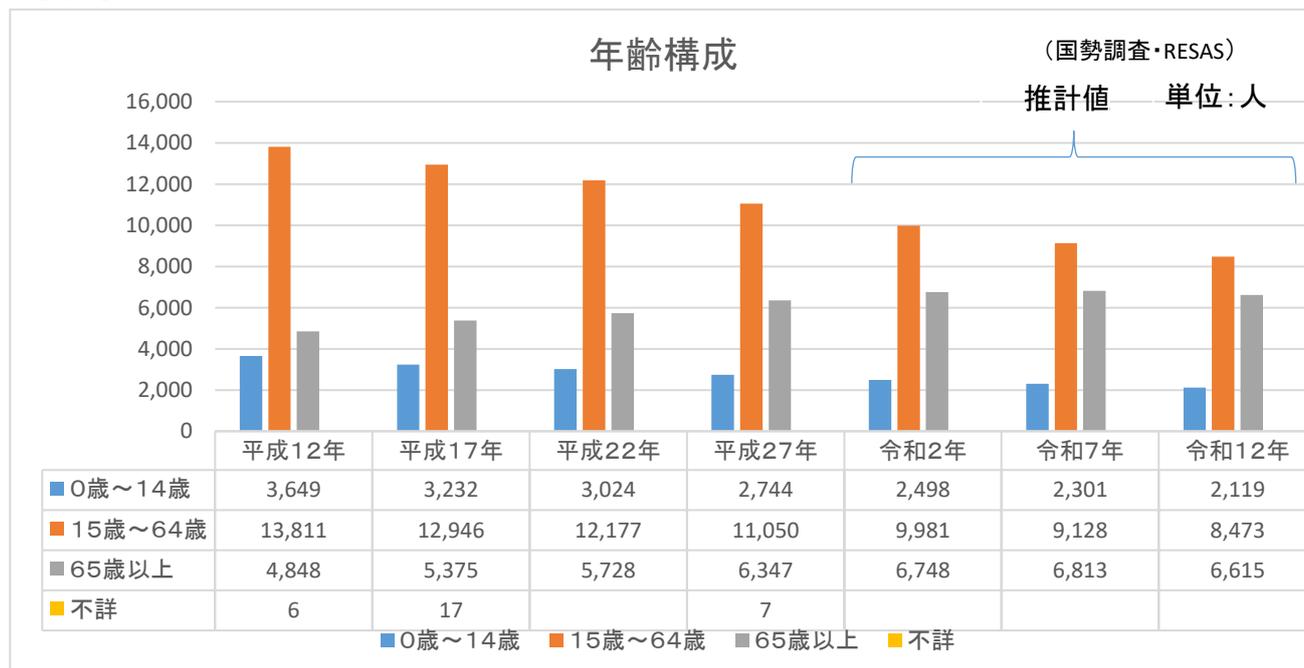
## 人口・世帯等の推移

本町の人口は、平成12年から27年までの15年間で約10%(2,166人)の減少となっており、減少傾向が続いている。令和2年以降の将来推計においても減少での推移が見込まれる。

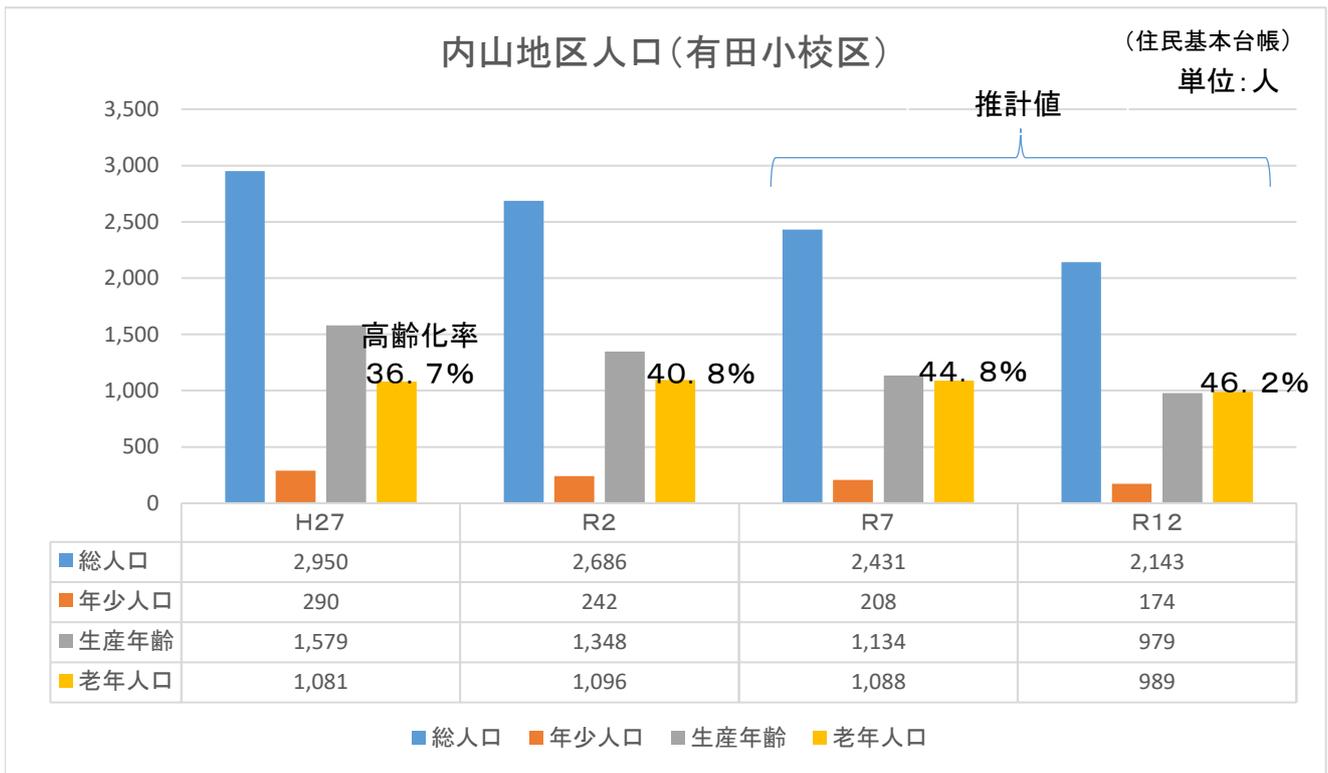
世帯については、平成12年から平成27年まで、大きな変化はなく、核家族化の状況で推移している。



年齢階層割合は、平成27年の0歳～14歳の年少人口が2,744人、15歳～64歳の生産人口が11,050人、65歳以上の老年人口が6,374人となっている。平成17年と比較した場合、老年人口以外の階層において減少している。令和12年以降の推計においては、すべての階層において減少が見込まれる。

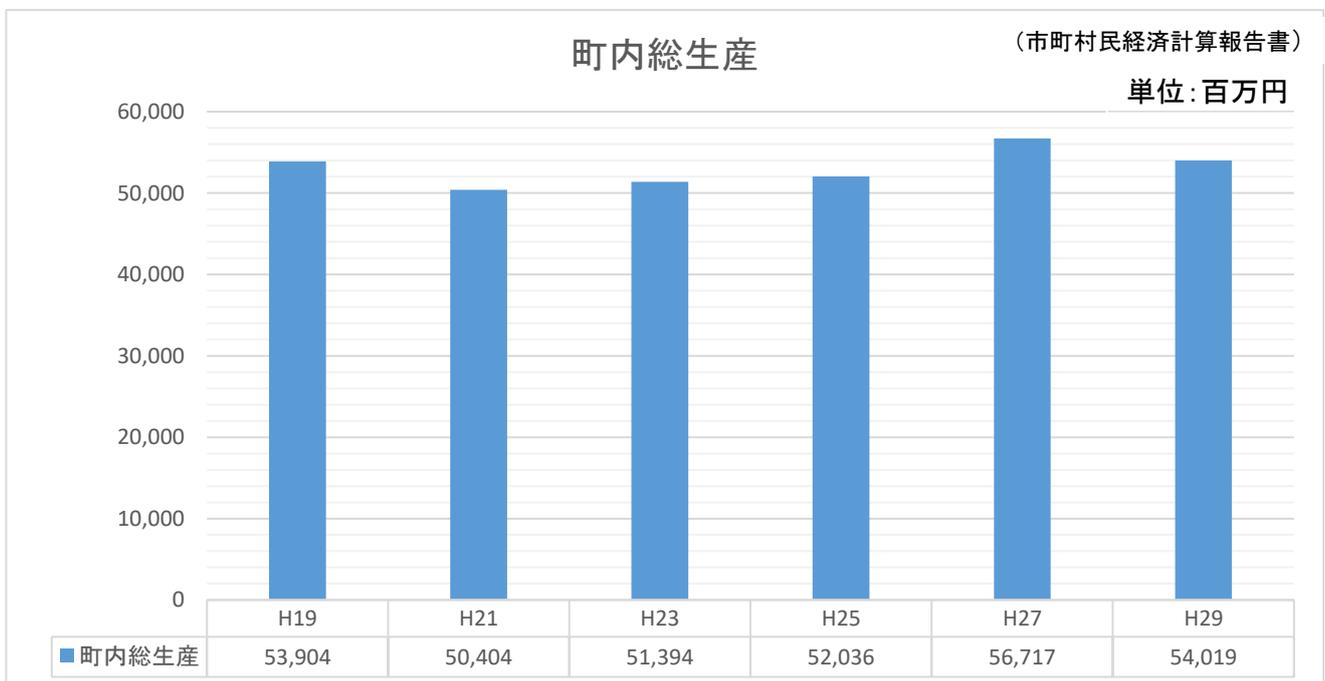


本町の内山地区の総人口は、平成27年2,950人、推計人口で15年後の令和12年は2,143人と27%減(807人)となる見通しである。また令和12年の推計生産人口と老年人口が逆転し、高齢化がより一層進むことが予想される。

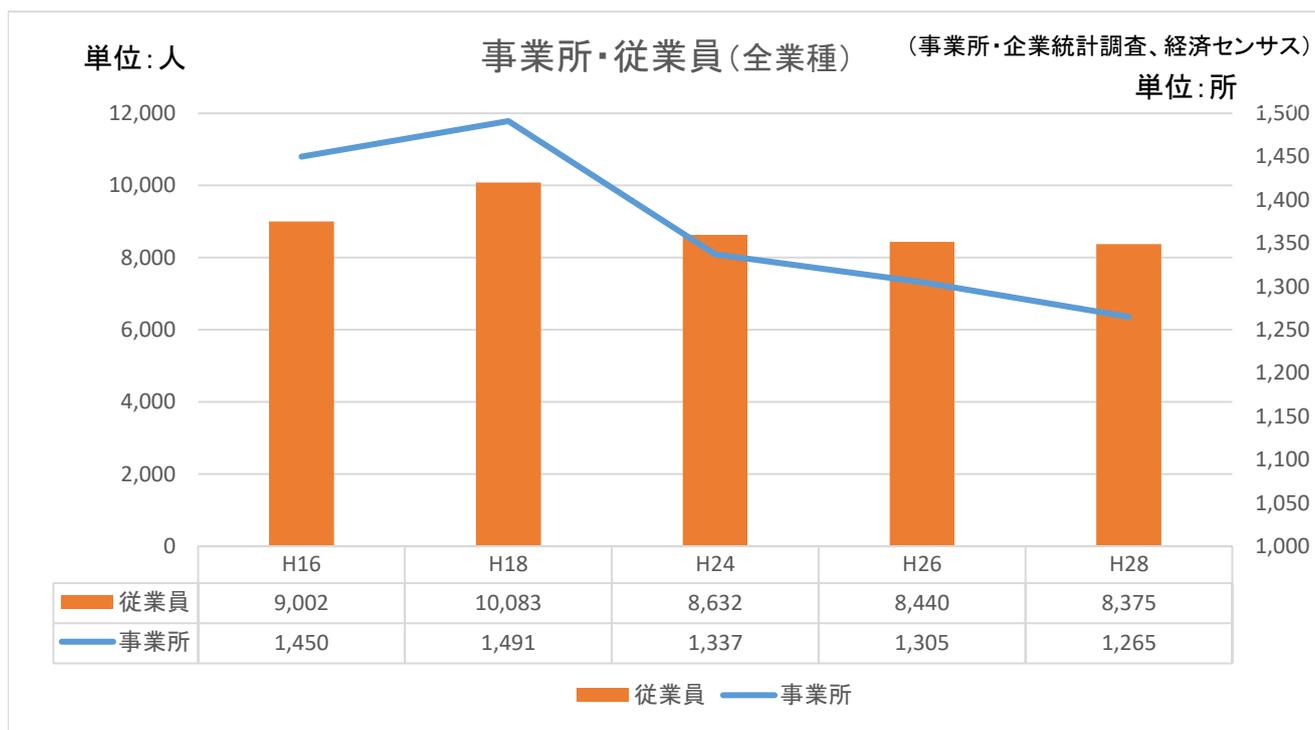


## 産業・所得等の動向

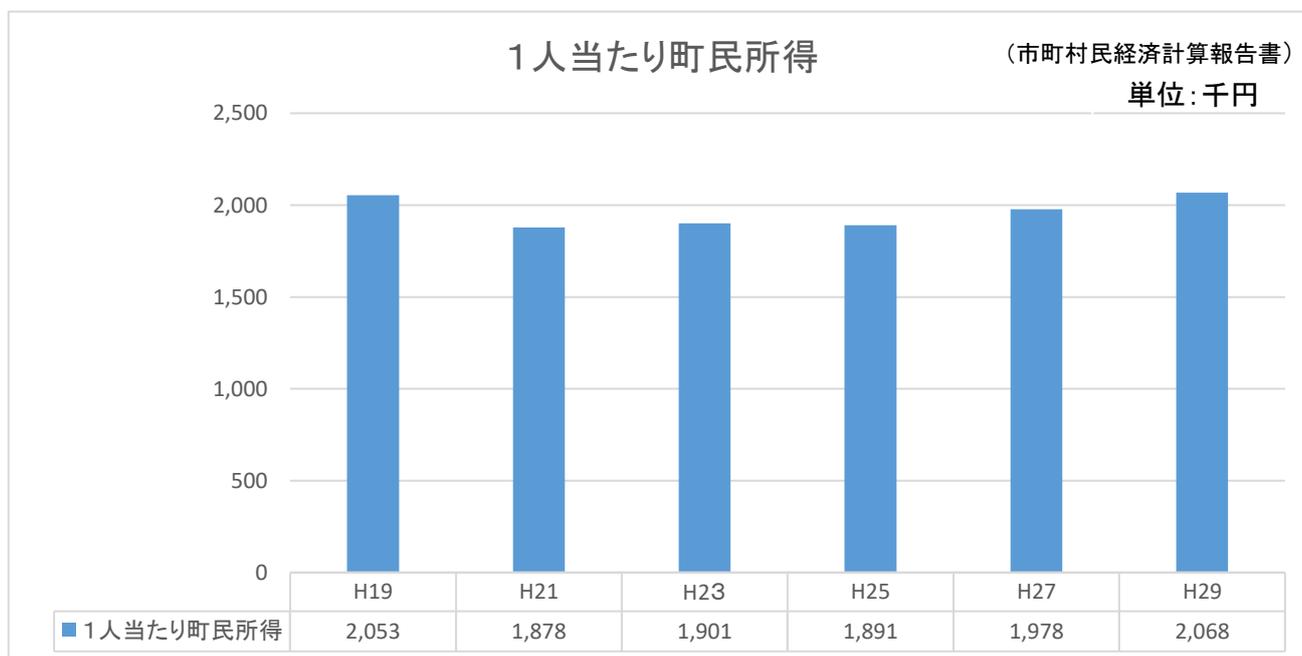
本町の経済活力の指標となる町内総生産(GDP)は、平成23年以降、多少増減したものの、平成27年は550億円を超えている。



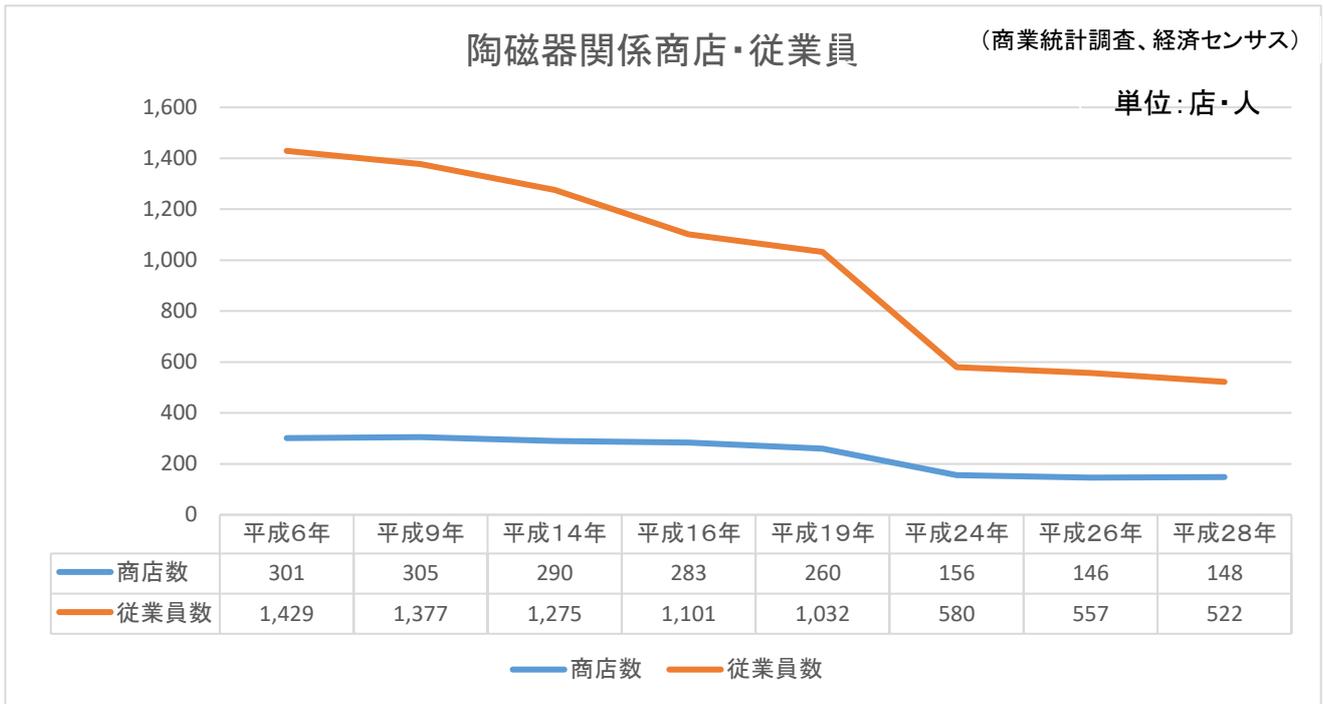
全業種における事業数所と従業員数は、平成24年以降ともに減少しており、今後も減少または横ばいでの推移が見込まれる。



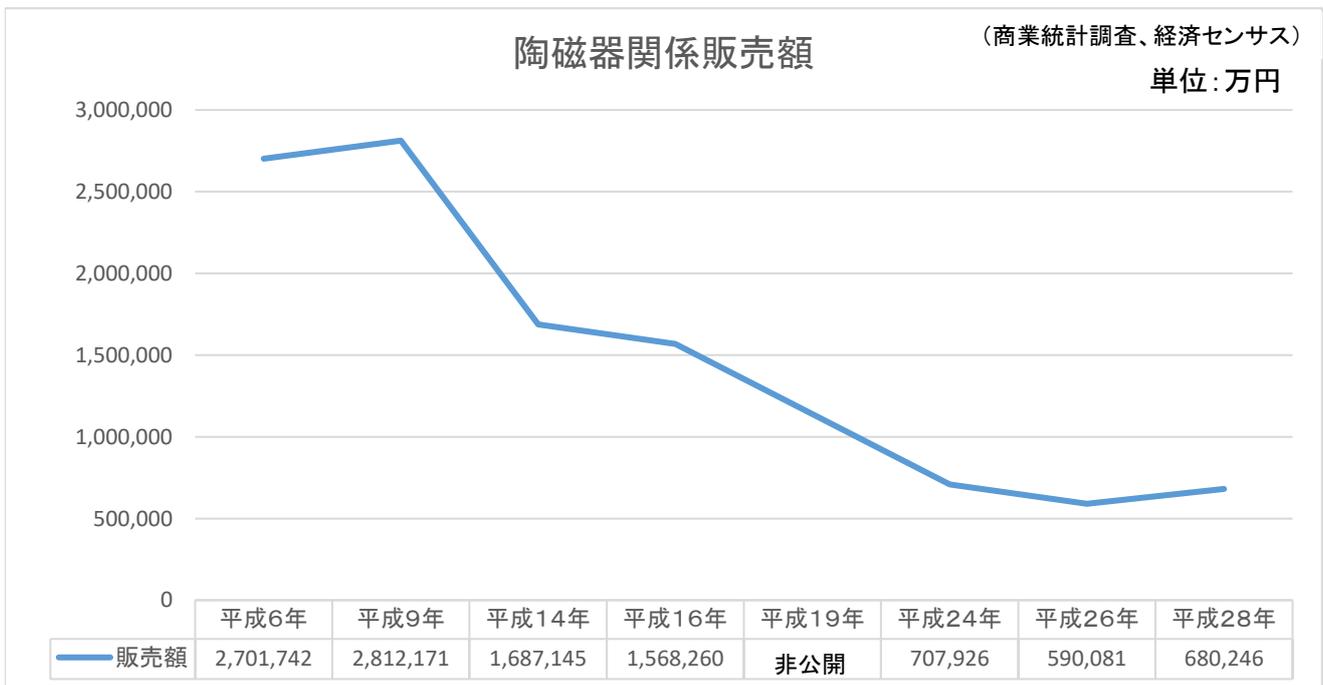
1人当たり町民所得は、平成23年以降、減少し、平成29年は平成25年に比べ9.4%増となっている。平成29年度県の平均市町民所得は、2,630千円となっている。



本町の陶磁器関係事業所の従業員は、平成6年以降、減少が続き平成24年に大幅な減少となり、微減状況が続いている。

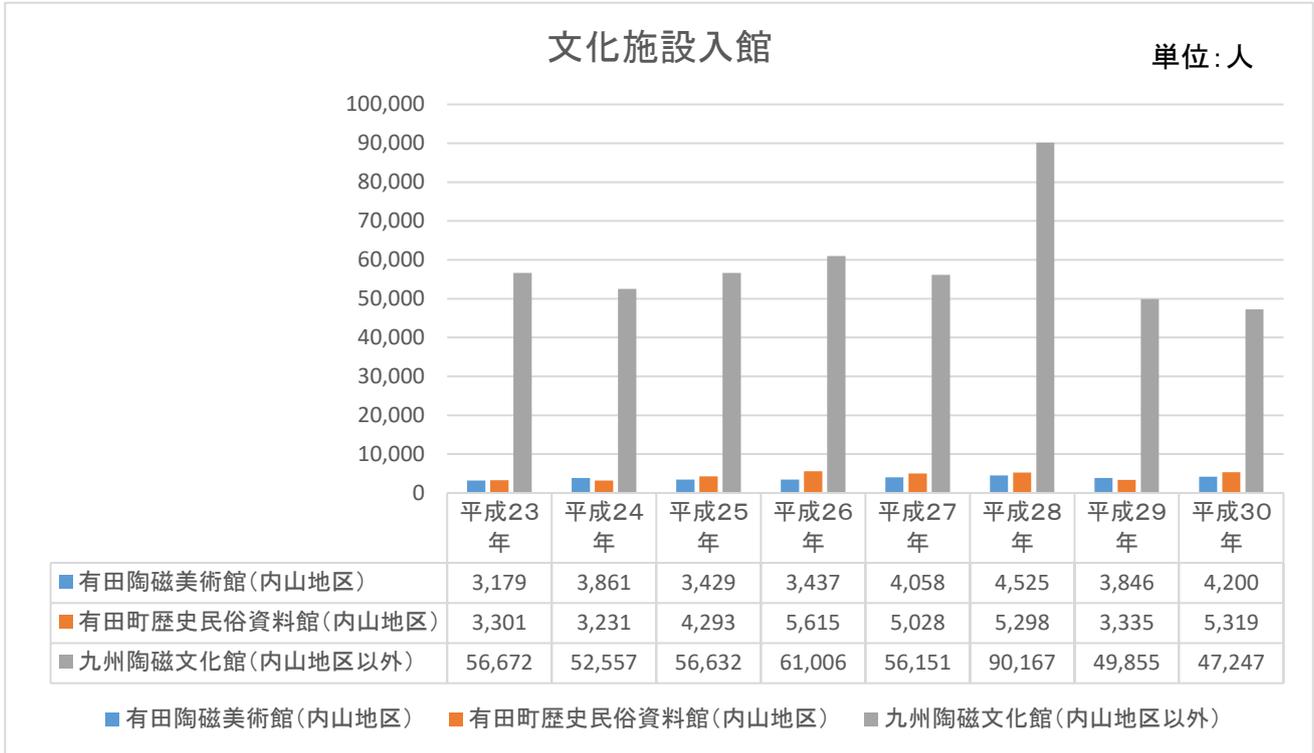


本町の陶磁器販売額は、平成6年以降、平成9年に増加したものの、それ以降は減少となっており、厳しい状況が続いている。

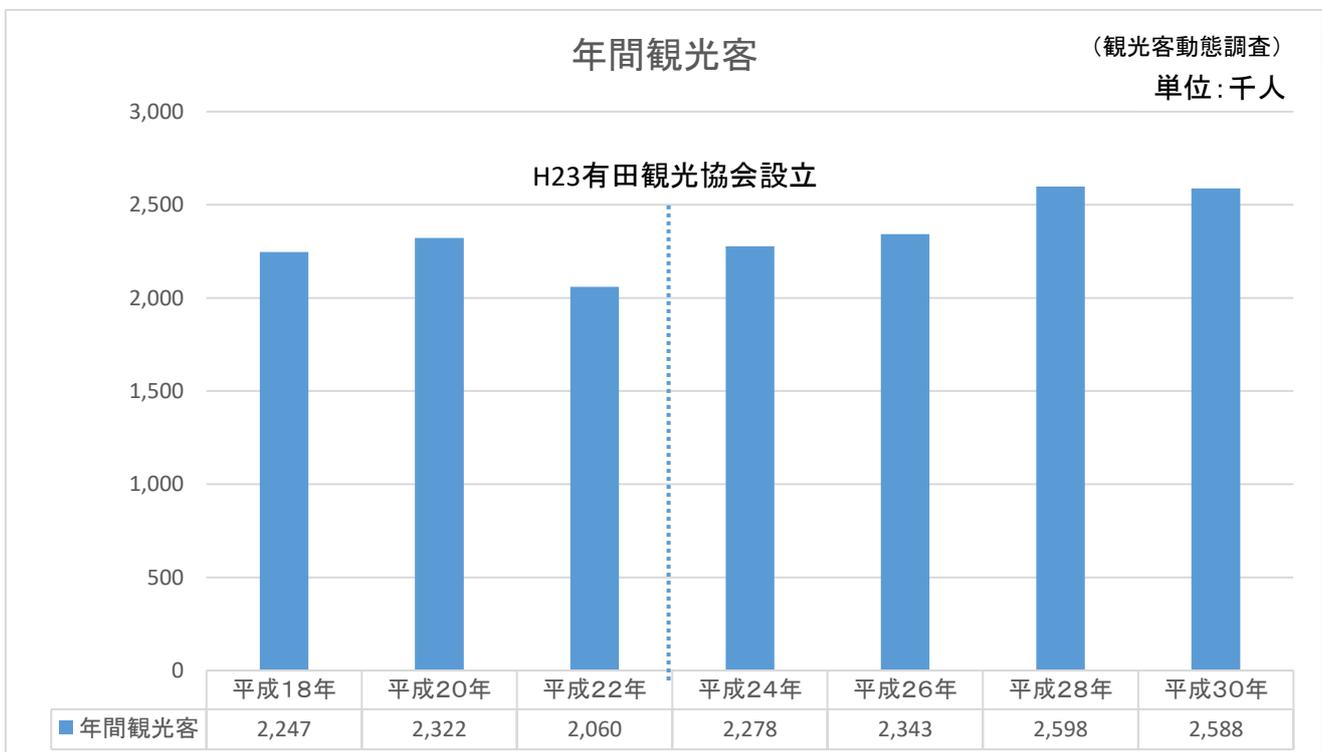


## 観光客等の動向

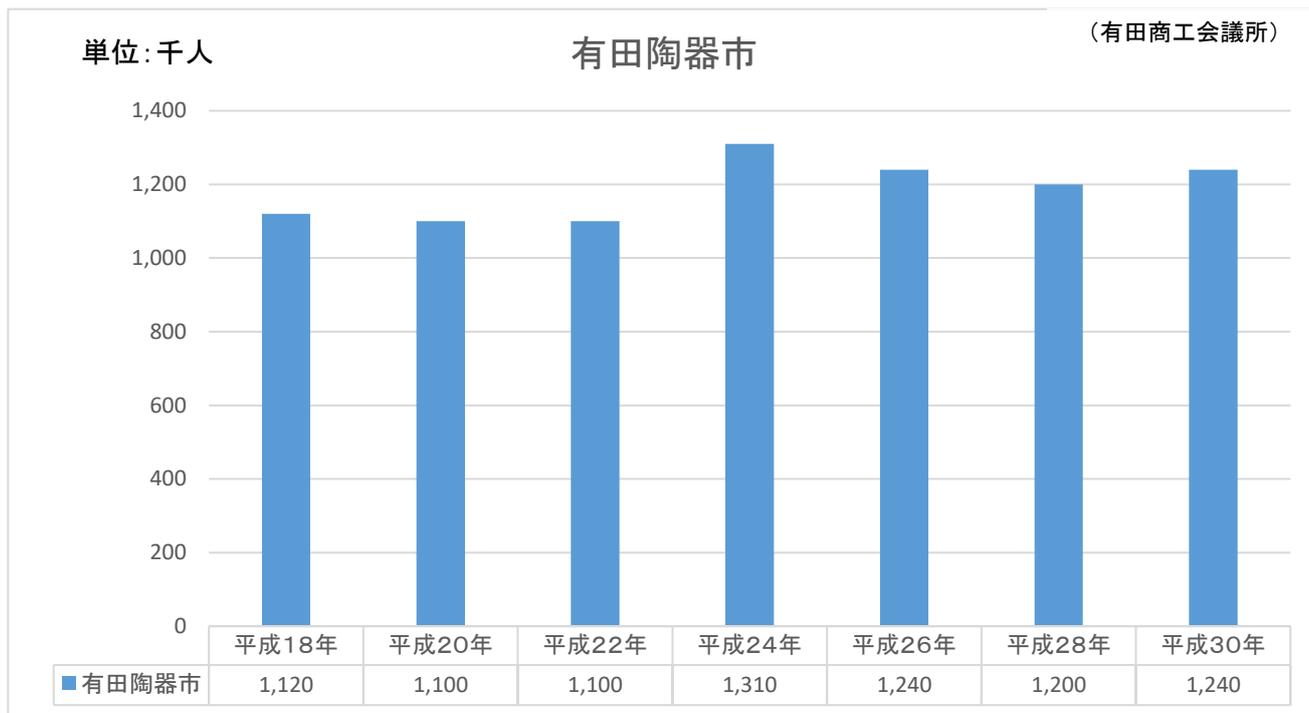
町内の主な文化施設3館の入館者は、有田陶磁美術館と有田町歴史民俗資料館ともに平成30年は平成23年に比べて増加しており、特に有田町歴史民俗資料館は61%の増となっている。九州陶磁文化館は、平成29年、30年と減少している。平成28年は、有田焼創業400年事業により3館ともに増加している。



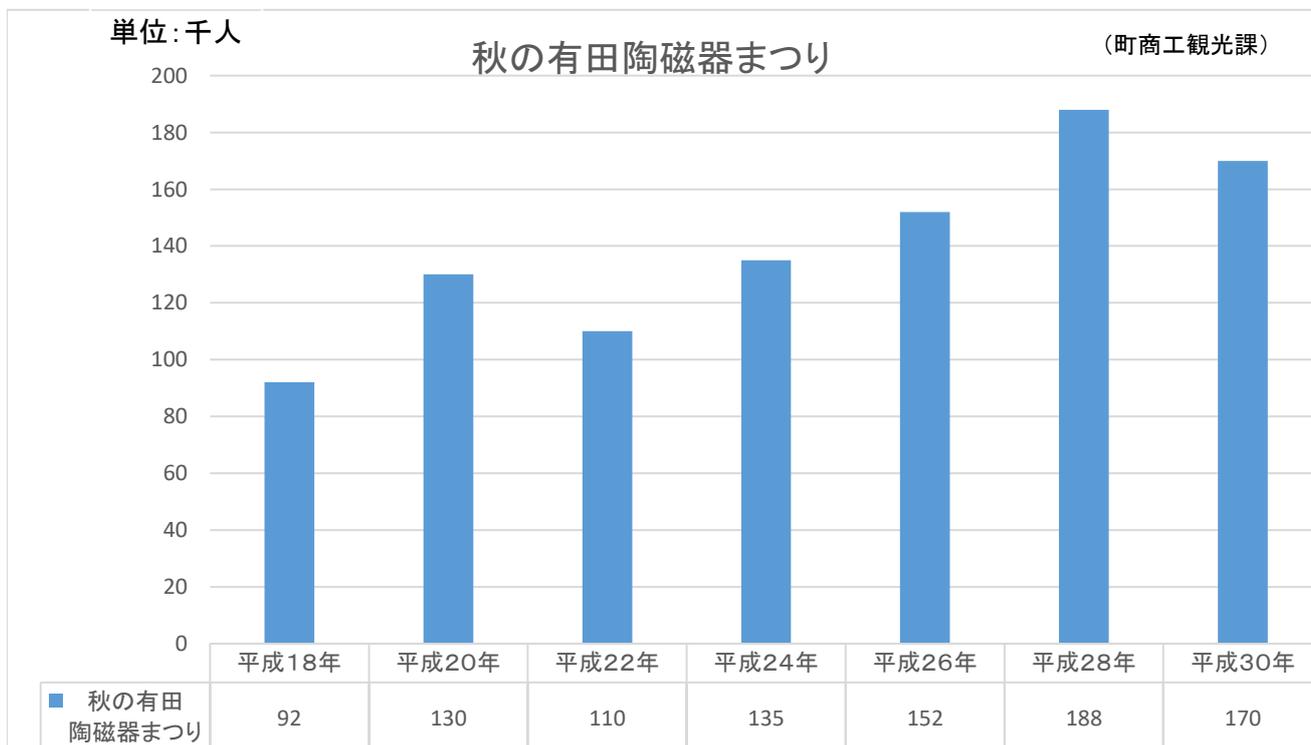
有田を訪れた年間観光客は、平成24年が2,278,000人、平成30年は2,588,000人に増え、13.6%(310,000人)の増となっている。年間観光客の約半分は、有田陶器市の観光客が占めている。



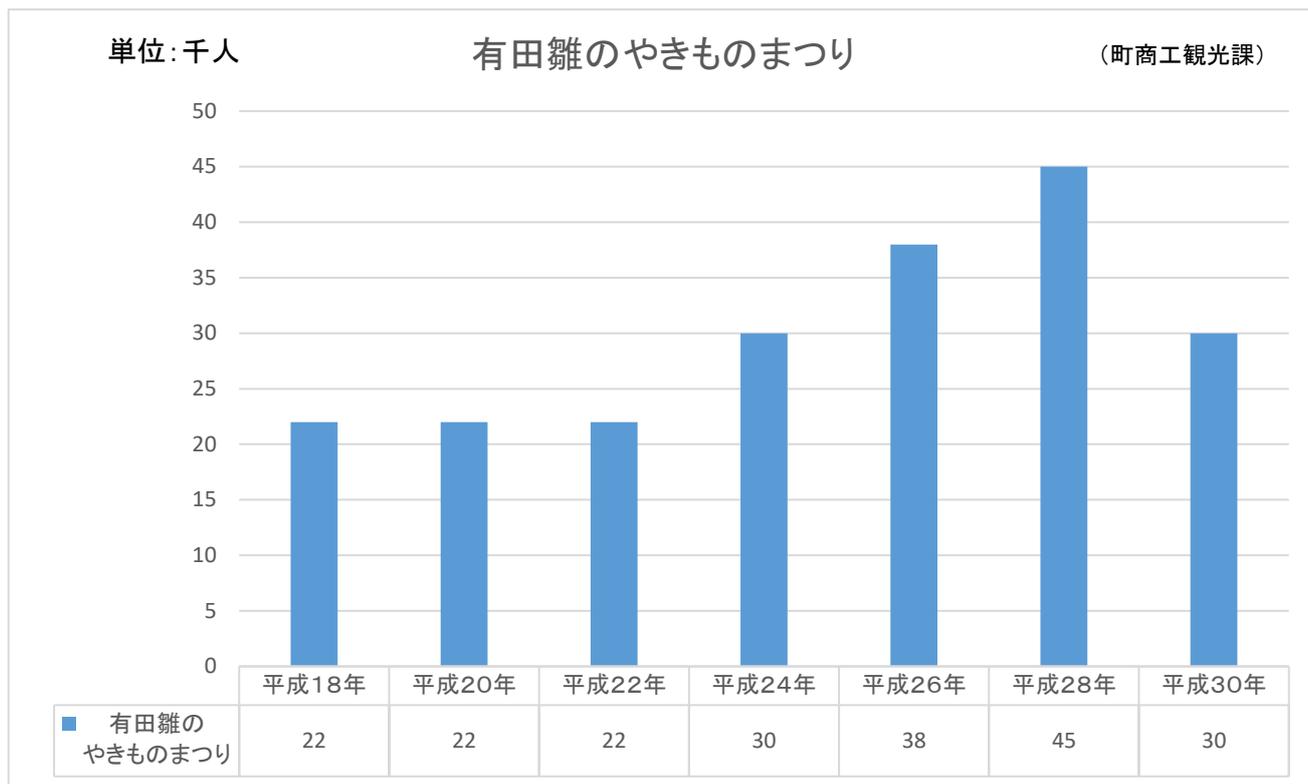
ゴールデンウィーク期間に開催される有田陶器市は、平成24年、平成25年が130万人超え、それ以降120万人台で推移しており、町の一大イベントである。



秋の紅葉シーズン合わせて開催する秋の有田陶磁器まつりは、平成24年以降右肩上がり増加、平成29年減少したものの、平成30年は再び増加に転じた。有田陶器市に次ぐ、町の大きなイベントとして位置づけられている。

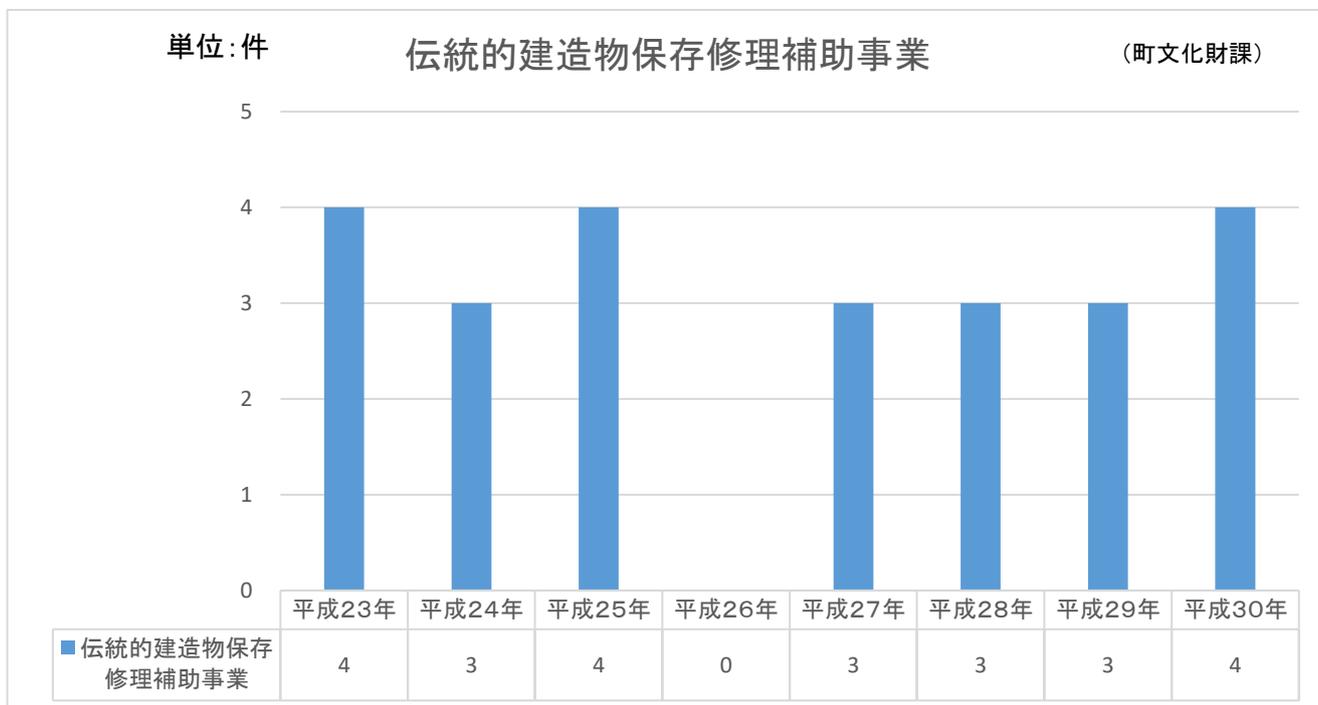


内山地区を中心に、町内の各店舗が焼物の雛人形を展示する有田雛のやきものまつりは、平成25年以降、右肩上がりで増加、平成29年から減少傾向となっている。



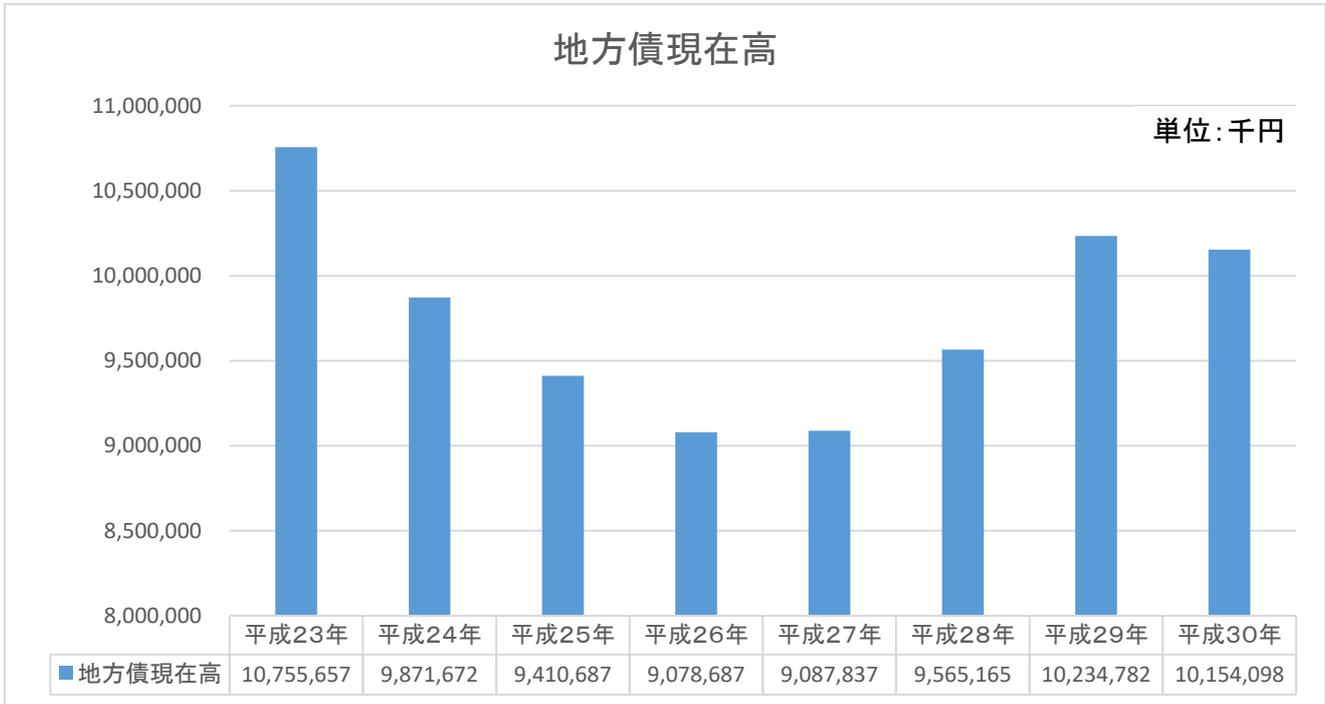
## 伝統的建造物群の保全・管理の状況

有田内山の町並み保存事業は平成3年度から始まり29年が経過した。一応のめどとして約35年間の保存修理事業として取り組み、平成30年度までに国、県、町の補助事業及び町単独事業として121件の修理を実施した。



## 町財政状況の推移

町の借金残高の状況は、平成23年は100億円を超えていたが、支出の抑制等に取り組み平成24年から28年まで100億円を下回った。平成29年以降は、100億円超で推移している。



町の財政指標の推移は、平成23年以降は経常収支比率と実質公債費率は概ね下がっているが、平成29年から増加傾向にある。経常収支比率と実質公債費率の数値は、低いほど健全な財政運営といえる。

